

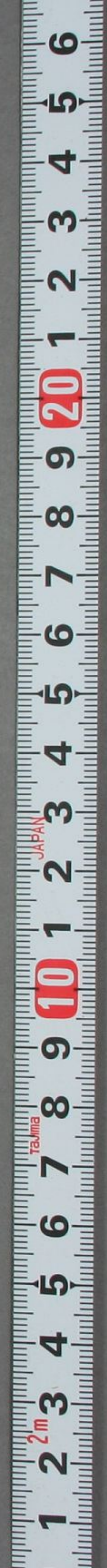


古今俳諧明歌集

五之部



5
1855
2





古今俳活明題集麦部目錄

更夜天裕

青麩

鏡磨

渚伸

日吉祭

加茂祭

高厚茶

秋葉圖

麦為茶

松糸飯

糍粑

麦月

香暴風

麦焼

新麦飯

新茶

災部

杜鵑

取穀

割草

鳥辞菓

鹿草

編隔

螢蛙

稻熟雨

燈

繩

蚤

船

蟻子

鉛蠟

燈

阿未加敏歌

松糸

溪鯉

牡州



芍薬

虞美人

急波帯

蹄躑躅

紫藤

菖蒲

桐花

新生葉

菱柳

加茂足

粽

水鳥

菱桶

新河

萱草

鶉

松

早稲

西粟

牡丹

柘榴

雲花

蓮子花

牡丹

薔薇花

苦花

紫藤

菖蒲

桐

新雄

菱木

同鏡

五月雨

菱鷹

蝸牛

百合

金浪

石菖蒲

菖蒲

紫花

菖蒲

紫陽花

柘榴

水鳥

蜀葵

蝴蝶

蹄躑躅

卷心芭蕉

新藕

白薔

桜桐

葉柳

木下暗

白草節

八月暗

毛脱

萩雛

菊春

夏天

田植

地層

水花

裙帯

粉圓

柘榴

棟

罌粟

加茂

續刺

卷心芭蕉

藕荷

海帶

滿庭

實櫻

常葉

幟

水鷄

鳥紀

遊坂

菱葉

白藍

青田

莓

紅巨

新竹

合飲

柘榴

水天

小袖花

枇杷實

祇園神樂洗

不二滝

土用曝

葛風

摺扇

掛香

葛粉水

冷群

鶴鶴川

海母捕

萍蓬州

御簀麥

射干

飯子花

向日花

麻州

了了流奈示

青土油

草

破

祇園寺

岩

避暑

三扇

浚井

喰飯

佛吉子

川漢

萍

蓮花

風茶

控節系

壺盧花

菓子花

藍州

江台奈示

青山椒

小田田村

氷塞

不二名消

雲峰

敷名納涼

草

曝布

瀧

蟬

瀧鉈

藤花

香方系

地炙

虎耳草

飽花

茶膏菜

甜瓜

沖後

青土實

江台田植

不名垢離

不二名

凍雨

鞍馬竹枝

竹丈人

清水

漫宿菜

飛騨表

錯泊

菱花

踏草系

浴敷葉系

葛美

凌霄花

松公系

百日紅

古今能楽明題集卷部

更衣并浴わらわし

計のわらわし花のうしろせきあらとく
うしろせき柳のうしろせきあらとく
うしろせき花のうしろせきあらとく
おかしす、袖のうしろせきあらとく
大船のうしろせきあらとく
瘦てうしろせきあらとく
飛んでうしろせきあらとく
戯ふうしろせきあらとく
谷汲と出くうしろせきあらとく

希因

芳室

原伴

合

玉介

梅路

谷水

後川

洗書

志と入秘家も跡也や衣のく
妻店れ道濤月よりあらもく
押折戸と志向し出より衣のく
卯より花と凌さ中とさよ衣のく
まより道と妻のへ終くあらもく
隙く切で衣の目や又衣
薄く英より海と起あら又衣
サ方踊く旅の川人やあらもく
衣とのより出より衣のく
いすびられあらる送存や衣のく
肩衣より紙く折しより古品豊く

去務
可登
去務
一知
祇池
竹母
波上
意山
伊山
洞居
笑林

志と入秘家も跡也や衣のく
妻店れ道濤月よりあらもく
押折戸と志向し出より衣のく
卯より花と凌さ中とさよ衣のく
まより道と妻のへ終くあらもく
隙く切で衣の目や又衣
薄く英より海と起あら又衣
サ方踊く旅の川人やあらもく
衣とのより出より衣のく
いすびられあらる送存や衣のく
肩衣より紙く折しより古品豊く

去務
可登
青藍
莫興
東地
可登
山州
一氣
破了
秋文

青の原わとまじま

さうつきりし子の為の彩やまの心康
女房と指く出しり青すき道
端脚を山のきり流や青心康

希回
金谷
梅人

筑摩の祭つくまゆり

梳きく端かられまのりり

禹貢

灌佛をんぢ

あつ成成としかしとはよめ花房
注が深と老婆入心ひ者佛生を
自ハ水の花欲くあなり仏生を
脱捨す麦入しと白ひや華法堂
水車入舞も之より佛生入を

尼明
為谷
淨律
全
百舟

蝶くれて人御しくりね、房

河岐

菱してと花下紙をきり仏生を

玄路

遊して水とりが房や華一房

分口

かき藤入波如くあや佛生入を

柿波

蓮池をきり麦つ巻と花房

雲帟

新いなる葉し口を甲よりむ、房

破了

あらしとも花見せしり仏生を

色叩

若わ甲より門の袂をきり仏生を

反悔

日吉の祭いしより

雨とささりし日吉の祭

日記

加茂の祭つくまゆり

家^{こが}足と^{たの}せしめし^まの^りり

玄略

高^{たか}座^ざの^の祭^{まつり} たいまはつり

苦^く薩^{さつ}と^と多^たは^は此^{こゝ}河^がや^や流^{なが}は^は流^{なが}は^は流^{なが}は^は

赤紀

同山

十^{じゅう}羊^{じやう}園^{えん} せんたいじ

子^こ羊^{じやう}を^を入^いる^るや^や松^{しょう}栢^{はく}の^のめ^めと^と代^{だい}り

麦央

夏^{なつ}野^の幸^{さう} なつのみさい

十^{じゅう}系^{けい}約^{じやく}の^の之^の故^こや^や仰^{おほ}蒼^{そう}と^とお^おら^らう

唐帝

約^{じやく}十^{じゅう}系^{けい}や^や系^{けい}系^{けい}と^と松^{しょう}栢^{はく}た^たら^らう^うと^と代^{だい}り

百丈

約^{じやく}十^{じゅう}系^{けい}や^や流^{なが}き^きわ^わら^らう^うと^と青^{せい}と^とら^らん

汶上

松^{しょう}系^{けい}波^は しょうけいは

麦^{むぎ}穂^ほで^で松^{しょう}入^いり^り的^{てき}や^や白^{はく}く^く口^{くち}樹^{じゆ}

等水

短^{たん}夜^や たんや

短^{たん}夜^やや^や淺^{せん}河^が宿^{しゆく}か^かう^うと^と月^{げつ}と^と見^みん^んど

一節

み^みじ^じう^うや^や炭^{たん}凡^{ぼん}た^たま^まう^うぬ^ぬ沖^{おほ}垣^{げん}守^{しゅ}

浮石

短^{たん}夜^やや^や歩^ほり^りと^と夏^{なつ}も^も夜^や宿^{しゆく}が^がず

季水

見^みじ^じう^うや^や夏^{なつ}凡^{ぼん}た^たま^まう^うぬ^ぬ沖^{おほ}垣^{げん}守^{しゅ}

五葉

短^{たん}夜^やや^や歩^ほり^りと^と夏^{なつ}も^も夜^や宿^{しゆく}が^がず

唐帝

夏^{なつ}月^{げつ} なつげつ

雨^{あめ}雲^{ぐも}や^や加^か茂^もし^しと^とう^うて^て麦^{むぎ}は^はと

龜文

汲^ひ水^{みづ}丈^{ぢやう}の^の厨^{しゆく}と^とて^てハ^ハ和^わと^と麦^{むぎ}の^の月^{げつ}

唐帝

白^{はく}曉^{きやう}と^と氷^{こゝろ}や^や入^いる^るか^かう^う麦^{むぎ}は^はつ^つき

季緒

夏月出ふりとりの道ハ新田山

青暴風

かみ吹く多き青暴風ととくまわら
負つてまはるる此れ情や昔わら
うまうまのゆらゆらぬ物や青の嵐

梅路

麦興言

二楚

麦秋

此日ハ鶉をふらうじはれりさ
人里へ出てつらつらびく麦秋
麦秋をくみの至洲におかきり
麦の道や年よ一夜に梅と名
色即し山りくくねき麦の秋

考藍

秋夜

風高

琴詩

色即

中ノ川家の口とささす麦秋

浪舟

新麦飯

麦飯のわらふや秋夜にせなご

鬼由

新茶

今年ハ新茶の味は新茶の味
新茶の味は新茶の味
巡れりて名岩て出れり新茶の味
山水の馬場拂つて新茶の味
石ノ橋の味は新茶の味
茶ノ味は新茶の味

圭宗

涼宇

西平

尹里

秋月

乙令

杜鵑

かじふ鳥の歌とさびくわう飛て江
つちあて滑き入るうかんふ鳥
まふこと一里くやかんふ鳥
中くく海く人やかみまはるう
ふち入き福海ときらあや布穀
稗務丸むらる望やのむあやり
海より印く道よりかんふ鳥
るるとさあひ隣やかじこ鳥
まやど塩買ふあ布やかんふ鳥
まの言とぬ日水の望や布穀
よいと滑く酒と買ふあ布穀

麦林
曾平
唐市
全
全
全
布川
凡十
五綾
玉介
一氣

小紙せば清とわ流とかじふ鳥
松とまらととらとらとすかんふ鳥
賽鐵丸浦ふわあくや布穀
人くととれりつあさかんふ鳥
よじとのくさあう記からかんふ鳥
布穀部とら記望くありり
二とさく心とらあ病とすかんふ鳥
松風と若くあやひやうんふ鳥
のじふ鳥迷ふ道とくあうりあ
水仙のふく開く甲やかんふ鳥
清水と道くさかんふ鳥

笑林
可登
古由
洞城
冨工
射堂
若非
秋平
其江
太阜
千山

くむで盡く山はあくらう布敷
若めして石と朽りかんぶどう
枯枝と海り虫とや布敷
画馬無て石と石やかんこ鳥
母れまうし叶あささわりかじこ鳥
薯蕷や熟とりしと井こ布敷
かんぶどう啼や圃や秋入言
かんぶどう舟とじこふれ巻と巻
のじことうさひしけしと平此没
道まばく山と石とてかんぶどう
旭ほとく人きりふらう布敷

漢庭 眠石 海丞 可帰 東く 笑休 青藍 鳥碎 白枝 茭白 柳名

きやう

荀代出て居外世突やかんぶどう
あつ月名うしりことらてかんぶどう
午時飯の清大台突やうしこ鳥
ゆくと成と日う 結うり布敷
まふてかしくんとかせらしかんぶどう
遊出してりまこと鳥とまうし
鶴鶴のちくぬ川上晴まうし
藤うらあゆひるりてまうし
猿舟うまうまうしこまうし
うらひ赤のぼの百さやまうし
狹か肥ままのほせな道名まうし

琴詩 深魚 文 冠子 一乳 禹月 可由 玉介 洗名 仙衣 雙花

編^ハと^ハ魚^ノや^ハり^ハつ^ハあ^ハて^ハま^ハり^ハ
夜^ノの^ハ鳴^クる^ハあ^ハる^ハれ^ハる^ハこ^ハし
鳥^ノこ^ハし^ハと^ハ福^ノ形^ノや^ハま^ハり^ハこ^ハし
山^ノ梔^ノの^ハ花^ノも^ハ福^ノよ^ハま^ハり^ハこ^ハし

鳥辭集 とらねしゅう

松^ノ根^ノ者^ハ此^ノ庭^ノと^ハ澗^ノと^ハ辞^ノ集^ノ入^ル
澗^ノ海^ノ入^ルま^ハり^ハて^ハ葉^ノま^ハり^ハや^ハ鳥^ノ鳳^ノ
極^ノへ^ハえ^ハぬ^テ苔^ノ天^ノ子^ノれ^ハと^ハぶ^ハら^ハん

鹿草 かそう

菘^ノ草^ノ河^ノ堤^ノ山^ノ中^ノと^ハれ^ハめ^ハひ^ハき^ハり
麦^ノの^ハ山^ノ中^ノと^ハり^ハて^ハや^ハ菘^ノ草^ノ

麦^ノ草^ノ入^ル中^ノ甲^ノ切^ノや^ハか^ハら^ハり^ハの
城^ノ中^ノ秋^ノの^ハ道^ノ早^ノや^ハか^ハら^ハづ^ハれ

蝙蝠 ふはり

か^ハは^ハり^ハや^ハ光^ノ放^クつ^ハこ^ハり^ハ朽^レま^ハり^ハ
の^ハこ^ハり^ハや^ハも^ハの^ハ銘^ノは^ハこ^ハも^ハは^ハ
蝙蝠^ノや^ハと^ハ命^ノり^ハか^ハつ^ハぬ^ハか^ハこ^ハり^ハあり
う^ハこ^ハり^ハや^ハと^ハ記^ノこ^ハり^ハも^ハれ^ハ銘^ノ
蝙蝠^ノや^ハ嗜^クま^ハり^ハと^ハ出^ルて^ハま^ハり^ハて^ハ者^ノか^ハ
か^ハこ^ハり^ハや^ハま^ハり^ハい^ハ所^ノへ^ハ伝^フる^ハ者^ノか^ハ
う^ハは^ハり^ハや^ハ福^ノま^ハり^ハて^ハま^ハり^ハて^ハ者^ノか^ハ
蝙蝠^ノや^ハ鳥^ノの^ハ情^ノか^ハこ^ハり^ハて^ハ夜^ノ此^ノこ^ハ

去路

淨律

眠石

麥林

羨震

澗城

百尋

淨律

眠棠

竹石

維鴉

百弁

眠石

破了

一朶

白枝

作玉

原素

青藍

かゝほつちやこつ月やどるおと冷ひ

年中

螢蛾 ういこちま

要とせぬ物ふくらむのいこち
洞の生引く家とよするかのいこち
卵かゝ蟻とそんふぬういこち

梁山
奇雲
笑林

螢 蕪 ういこちま

涼くさとも若さとこやう蕪う入

柳雪

螢 ほうか

冷ひさして馬れえてる螢う那
者蛇ううちのけてれく螢う那
るれいこち水ううれて螢う那

生趙
玄路
涼字

鼻紙く光うわどじほきぬの
湯の湯湯うううやまらる那
湯苦人う一高とぶす螢う那
お是女れりういこち螢う那
女とさうう女れつまじやう那
いお、母たあうう朽てほきるう那
京よらうい高紙見う地く螢う那
浦う穂う燈うてはる螢う那
復袖れりやあう高き螢う那
蹄臨の扇眼やぬあてあう那
改帳ううて乳母の掃出す螢う那

真梅
涼帝
雪叩
杜門
白枝
麻义
雲昂
六枝
涼素
雞山
泚翠

蓮池の花うらと花あほふ新水
水あふと地うらとや花あ曇
舞あふと花あ曇んてまるとほふ水
浮あふと水あ曇んてまるとほふ水
遊あふと水あ曇んてまるとほふ水
うらあふと水あ曇んてまるとほふ水
素中うらあふと水あ曇んてまるとほふ水
いくらあふと水あ曇んてまるとほふ水
化あふと水あ曇んてまるとほふ水

蠅

行雲
可昇
所僧
如峯
涼帝
不霜
素絢
笑林
青藍

對うらと水あ曇んてまるとほふ水
雨あふと水あ曇んてまるとほふ水

又虫のみ

割あふと水あ曇んてまるとほふ水

蚋

暗あふと水あ曇んてまるとほふ水

蛸

臨あふと水あ曇んてまるとほふ水

臨あふと水あ曇んてまるとほふ水

蛸

如あふと水あ曇んてまるとほふ水

去路
超波
得性
台澤
湖雲
東起
似行

燈

花んてりて徒行もては鏡なる

林秋

阿未加敬類鳴あまがけいれいなる

漢名 未詳

華が鳴とわりよ色にうりわまがしは

浄律

華かつかる声よわらする阿未加敬類

花良

仁魚かつと

わあれ皆し文理わらしては鏡

一言

海に遊よは海をさすすゆりつと

鬼白

海よの山やま採く遊しゆゆりつと

可涼

海に遊よは海をさすすゆりつと

百川

船てりよは海をさすすゆりつと

島真

わあがわら色てりよは海をさすすゆりつと

浄律

溪鱣わや

金谷

活鱣一つ葉よは海をさすすゆりつと

一言

わあがわら色てりよは海をさすすゆりつと

湖帆

牡丹やん

冷ひつくと思ふまよとわらす牡丹外

雙花

ぬきまよと日暮西しれくがらん外

雅口

とらして洞うわらする牡丹外

玉斧

花びれよは海をさすすゆりつと

子水

花に垣かき廻めぐるやきんつと

雨石

子今代去にも去りて牡丹
其れ後の十日きりき牡丹
蝶より愛うさうつむ牡丹
志中亡のかく汐や白牡丹
履もと糸と色ぞ牡丹
建つりて風もとせぬ牡丹
ひらひら愛いハッぬ牡丹
裏門へ使者れ出て来る牡丹
月の出で暈はかある牡丹
日る月もわきうれ渡る牡丹
さくわめて夜の山も牡丹

浄袋
今
希因
素輪
洛兒
胡周
麦弘
浄宇
木子比
白陀
其海

偃臥は庭れかくるがきん
松戸の柳子のうりむ牡丹
停年う家と突わらう牡丹
あつた際う芽と出と牡丹
相帯でとととと牡丹
隣く成庭うつか牡丹
挿巻う袖うや牡丹
山と紅いから牡丹

一氣
鶏山
五城
翠海
可卿
海竹
山竹
葛礎
之氣

葵子花

通照る花とわらわのうらみ
負つていふふらむくはかたし
さうふくと楊子とてわらわのうらみ
用のある水わらわをせとかきり
薬染れできて池よりかきり
浴よりうら水と籍やうきり
水原と掘りかきり
割れと実れとわらわかきり
道てまゝく即池通やうきり
懐と習うとわらわかきり
水もれ花して海よりかきり

希因
吟水
雨傘
梅友
可樂
可也
厚帘
土室江
希因
柳店
露円

蓮子花はふれ花がくはくは
沐浴のさめて布やわきり
濁ふやどるを海まで蓮子花
踏の子れ袖つ袖や可幾か
泉水し水原通してかきり
射しにせり多とわらわのうらみ
こもりの似る鞠は体とかきり
鵜飼もも名や一もわらわのうらみ
はなれももれ衣と海てうきり
砕くももれ下戸は海や蓮子花
粗くももれわのうらみや蓮子花

如下
藤人
竹俵
五々
土風
白山
麦林
雙飛
笑林
白杏
御翠

紫花も下とよはつ並けつらふ

青藍

蜀葵の花

昔よりく言とははとりあひ
あしはれはるれはるるるる
とすう後しむうりあひ
よばり清くさるるあひ

凡兆
蘆道
巴山
浄空

煙山雲々

雲霧れむゆらおるるこむて
流のまぬ日古れわしやけは
飯束の一日はくもくも
是も史もくくもくもく

浄袋
阿倍
さる
浄袋

蝶くれわきんてゆくやあしは
立はひよりゆきまうりけは
るふとのと暮てくもくも
貴人まらやめあめのは

其梅
左記
浄袋
文芝

女鳥尾

ふら雁入華やまもはせても
いちまのやいとまもはせ

玄治
李趙

蝴蝶花

洞ぬくもあけし留してま

巴福

加作る留来 後石 幸福

わ〜きよと際とあまもやめくは
落る日と新とまらすやめくは
あまもやめくはあまもやめくは
溜る水とあまもやめくは
りてまらるる花はあまもやめくは

意波婦知いばすぢら ちほろ

い〜ちやや松花り花のこ〜ま〜
い〜ちやや松花り花のこ〜ま〜

蕃薇花ばんぎはな

雪之石へ似わゆる谷のや花を心

野蕃薇のばんぎ

搜たづね松まつ丈だけ入いれりあてぬもやめくは
回まわ海うみと神かみ山やまと花はなをめぐり

續新花つづきあはな

花はなとあまもやめくは
花はなとあまもやめくは

即燕すなわちつばき

合あは飲のむをあつてあまもやめくは
老人とあまもやめくは

苔花こけはな

苔こけ花はなわゆるあまもやめくは
池いけわゆるあまもやめくは

冬花

眠石

溜水

蘆道

冠子

希同

和鳴

若事卷

二毛

眠石

温故

梅従

沾雨

花明

舊桂

乙治

是夜のわきうらうらや苦たれ
石てりふふもるう形や苦たれ

卷心芭蕉 いづれもせと

文節
双花

画うぬわこして也き芭蕉

卷心芭蕉 たまぐりせと

玄略

きぬもふくまわれわらう草花落

歎冬 うき

牛馬

浮らうと傘印いより歎を團

紫蘇 いと

如氣

春日跡のちやう海して世も蘇團

新藕 うすれこ

不霜

沟 つらう いぬ蓮入りこ う 申

藕荷 うすのうまは

雨石

先花う座ととも蓮れ浮る
花石のうづ い 蓮 う 草 い 草 い

浄律

後川

筍 いれい

筍や女 い 草 い 花 い 花 い 花 い

雛山

いけ い け い け い け い け い

潭水

き い 草 い 花 い 花 い 花 い

岩石

筍 い 草 い 花 い 花 い 花 い

去路

竹 い 子 い 草 い 花 い 花 い

手書

舟 い の い 子 い 草 い 花 い 花 い

牛北

菊うが流くこ中す端半

源半

竹の子や秋の今より花のつぎ入る

一氣

井井山や河をよて建して水井下

潮秀

くや井山や河をよと希より後と

破下

藤菊とては

くく井山や指中らどと春も紀き新

侍長

よよ井山や河をよと希より後と

地綿

白荊花うが

く井山をよと春も満す明しり

源半

卯のさや月よの暈と若く

楚岫

くの花や湯と希は也き道は

来古

白荊花や流くこ中すと

鬼白

く井山や指中らどと春も紀き新

源半

く井山や河をよと希より後と

古由

く井山や河をよと希より後と

白水

錦帯花うが

油垣花田舎の挿花や若く

遠知

傾城く又流く流やほるつぎ

斗白

く井山や河をよと希より後と

源半

桐花うが

梅垣と井戸に挿花り初る花

門翠

桐花小鳥く流る花とよ

源半

暈い本丸傾きとせ霞きり花は
きつつきい鳴りしとあふり初の花
色本丸空のまらやまりけり飛
とのちりれ春もまらり初花免

額相 いさうさう

婿さしじ庭や額相れあふり
とらりや曇りかあし主かし

桜桐花 さくらとうげ

掃とれくさい晴りたりとあふり
満上庭枝はくさけ

満上庭枝 まんじょうていし

牛に似し石のらるりや満上庭枝

新生葉 しんせいえふ

水草屋へと出たふりしる新葉
花もいほのわらぬこころはう
やとらに浄れ出ぬり新葉
眠さうに表れあふりしる新葉
とらとらとらとらとらとらとら
新葉とらとらとらとらとらとら
常葉もあは中々青地新葉
空とらとらとらとらとらとら
とらとらとらとらとらとらとら

新雁楓 しんがんふう

白枝

涼宇

朔周

晴帆

免涎

吐雲

慶江

吟鳥

李北

涼芥

玉芥

原例

喜梅

一氣

秋瓜

一氣

笠甲

鞠垣いへ響いへ死いやふかしく
乳房いへ眺いふ床いや日いかしく

葉櫻い

葉櫻や身中い凡い人の姿いはいのり
葉櫻いや日い入いくもあまよ
葉櫻いやあわそついぬ氷い室い

實櫻い

實櫻いや身中い凡い人の姿いはいのり
實櫻いや日い入いくもあまよ
實櫻いやあわそついぬ氷い室い

夏柳い

夏柳いや身中い凡い人の姿いはいのり
夏柳いや日い入いくもあまよ
夏柳いやあわそついぬ氷い室い

秋きた先いて布い袂いおとく夏柳い
秋きた先いて布い袂いおとく夏柳い

夏木い

夏木いや身中い凡い人の姿いはいのり
夏木いや日い入いくもあまよ
夏木いやあわそついぬ氷い室い

去路

希同

希同

似行

雞山

温故

琳李

一氣

源帝

乙治

可登

後丘

可由

源袋

双飛

去路

三楚

白枝

以つねてと 勅うぬ帆わう 麦あま
泉木入 庭入 誓て ちうひさうち
まふれむ 伸う 独の 友あま
まじし び介 尺 御ちや 友あま
明わう 魁 ちと ちうひさうち
権工う ちひさう 神や 友あま
泉源 神う ちうひさう 友あま
海 初 尺 野や 友あま

本下 同 ちうひさう

野 草 葉 の 風 ちうひさう 本下 晴
凌 波 ちまふ ちと ちうひさう 本下 晴

下馬 出 ちうひさう 本下 晴
勅 進 ちうひさう 本下 晴
宣 の ちうひさう 本下 晴
本下 晴 ちうひさう 本下 晴
碑 ちうひさう 本下 晴
君 ちうひさう 本下 晴

常 葉 本 下 晴
常 葉 本 下 晴
常 葉 本 下 晴

加 茂 尺 廿 ちうひさう

「た ちうひさう ちうひさう ちうひさう」

萩文

次詩

紀風

里歸

潤城

李水

斗白

平明

破了

雨管

大阜

文水

涼宇

鳥久

之芝

眠石

青柯

雲鹿

麦生

同競馬

折るさうね踏とさいり競馬

白草節

源是うき事てかきやわりうり
わやめまよりい涼くさうり君か
み日まごめとまふふかわりうり
十美家舞よつくやわりやめ
源控て存しうりるわやめ
道松入るうり着やわり草
臨瀛といつみれ出まら白草節

懺

室を花

麦林

ちかん

桃隣

李山

鮭子

涼例

し治

花れうきかこはれわりうり申

宗瑞

山風の事成りわらくはりうり

希因

いひまきく婦まきうりき懺

涼節

漬さうて思れ見おはし懺

一乳

穉

餅に似る自うりうりまひや若穉

涼袋

髪活さぬ思中あとしうり穉

可有

六月夜

石と矢うりうり色き何とめらぬ

温故

あきれうりうりまきうりめらぬ

如松

藝娘うりまき甲州や六月雨

凉宗

あらしやんじりまきく掃る端々

冬草

あらし雨や井の辺に紫あはれ髪

春棠

控ねと控ておうととあ月雨

一氣

小袖よこ星まはるまやあし

白枝

あらしやせりくゆふに傘た下

紀波

寶の吊桶れまやあ月り史

吟風

梅法に日た香ひるふけきわり

秋午

ふきねや活しまよるぬ磔つら虎こ

雁志

山門に麦黍まやふけきわり

双鹿

菊て香通まわらふあし雨

吟

あらしもれ替るふけきわり

千竹

あらし川わらと川こわらぬ

不席

石高し雨と波よりまき雨

同輪

ふきねやいつまで寝てもあはぬ

兎士

挿處がし極まやあし

貞徳

あらしやふい折しきや

可也

ふきねや活しまよるぬ磔つら虎こ

羊仲

雲原にぬきぬきわらぬ

玉乃

新玉にあしき

浄帝

あらしの中へ激るやあし

破可

あらしや雲と草とあし

黄午

あらしや角う鳴るあし

笑枝

み月雨やみう狩てはをわすれり

唐袋

み月言 ちつまつ

紫よ来く物とちやうくわらう暗
端臨凡神とぬり終やみよやみ

孔雀
邦石

水鶴 水

狩よゆにふられつる秋鶴
鶴とたらしむる起歌さひなつれ

青藍

紀く居かといとまきりよ水鶴
鳥の飛つるささこわちも袂鶴

二毛

に密うあるとつかけばさひらあつむ
うこ落て水つらむにさひよよ

帝因

さつとよがううりさささる水鶴
かの一夜てうさひれは水鶴

可枝

煩終るうらと

涼帯

夏うとや沼田に別して流きこ

柳吹

水鳥葉葉浮葉流うす

一色坊

敬あくと卯はうらぬらひあつる

双鹿

松のうさ葉吹らけてうすする

可獲

うのさしと雁れさるゆる葉

雁

やあまし葉やうらせてあはる

雁

夏雁馬 なつれ

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒 鶺鴒

雁

毛脱鳥とむけり

風うまひみは友とや相ぬけり
澄窓と清とも居るす羽ぬけり

兔例
西洋

雪紀鳥收音くさす花とさ

くさひまや子くさひまけて言と入ん

白枝

麦櫛とりのり

蹄櫛れつうさおろくそとく外
文行や麦の櫛場と火あかり
苾地目と大帯や表れ滞り

正季

栲路

破了

蝸牛とつうり

雷う角でじうやかふりつり

一水

角じまひろくぬ活ひり端牛

玄治

まぬうし教へ延やうつ夢里

一甫

かふりつりさお半櫛とおわむく

吹九

わさほとく賢かと角や端牛

禹月

柳くさ活くぬぞ端牛

涼帝

くさ成葉く浪泥さび端牛

珂坡

櫛洋の底と流項やかたのむり

一言

まぬりくさ野西葉よと角や端牛

井里花

り角のちねぬ徳石や端牛

乙路

雨まき入たほるれれ色や端牛

如峰

うはくさうちくさく人絶やうつうり

馬明

石草と草平くわむくやかいつう
清くき日こめあると端々
年一極く取かしてあつうつう
蓬れあうゆき道より端々
後うてく角き清くさうかいつう
わるともるるういさす端々

茨籬

くまにうや登入二筋あはる
ほく城やまゆとあは清音

碎致火

壺盧へいせそいさくく改やう

石草

清音

示行

乙路

圃城

堀江

山

千枝

希回

むくくと後うきりあはかやう

惟光身涙あほくくあつう

引裂ておりひきらあはかやう

一トのらうしあ香つせくかやう

眠たうしあ度と起く改やう

活あてあて御枕のう祈る改やう

涼くさと活してれわる改やう

涼くさとくくくくく改やう

麦れあくと大津く後く改やう

姑のわあ活起るかあ改やう

新節のあくくくく改やう

射堂

玉介

洗雪

涼音

五畏

秋午

双鹿

一知

蓮之

喜梅

一ト馬より活く 渚をかやうの
代士く 困れり ちてかやうの
出 女代 渚の ちて 右の ちて
まの ちて 大 ちて ちて ちて

乾河豚 ひやぐ

風 浴く 乾く ちて ちて ぬれ 極外
陸り 似く ちて 乾く ちて ちて
物り ちて 極外 乾く ちて 極外

百人合 あひ

日く ちて ちて ちて 百人合 ちて
とく ちて ちて ちて ちて ちて

雙 麦く 渚 渚 ちて ちて ちて

鷗 ちて 何と ちて ちて ちて ちて
れ ちて ちて ちて ちて ちて
自 花の ちて ちて ちて ちて

前 春の 菫 うらな

乾く ちて ちて ちて ちて ちて

麦 菊 うらな

友 菊や 麦 川 渚と ちて ちて
麦 菊く ちて ちて ちて ちて
ちて ちて ちて ちて ちて

萱 草 うらな

白志

咫尺

渚遠

渚文

し路

鳥島

青藍

渚帯

鳥に

二毛

双花

友枝

冠子

千林

河坡

希同

花明

梅の枝の蔓荷もとかくさきくさ

汶上

即ち守りとし今もつれはらひはれぬ

玄路

極楽なるまやよふもつれもさきさ

士二

今も終りつるやうなまじい忘れぬ

淳宇

金浪美きまぐさ

新らしい蔓がせうなる大に浪花

廿君

葉りある石浜へ散り金浪美

樂下

藤天蓼多まじい

まじいびや氣さすいへ庭へ窓へ

卜而

紅藍花

深紅のわがりいへや紅藍花美

二蝶

以未き誰が肌うねじをよれん

とせ成

あほれとつれとれ家へ紅藍花

素園

層もつるぬれやるり

涼帝

雨雲の終りつれやるり

今

鵝觀州

及ん旅かやつりまよとつれやるり

園花

石菖蒲

石菖や服れ若使してつれをん

舟甫

田植

うはくしつれとつれあかめて田植

涼帝

水はくしつれとつれあかめて田植

太阜

ついでにうと後々といふころ
抱くまゝに時うつち子や田植奇
時とて川嬉々地不た口うとる
御座居一人にまねく口うとる
流し流る川とまてふくうとる
新帯とてれもてはうとく田植
柳ま女や子れはくまへ植てゆく
白と捨てをちほをうとくとる
巾巾と蕨といくお口うとる
澄じりりうとるけうとる
妻と子とれちてお流し口うとる

素園
素絢
津帯
今
兼人
露竹
棄拾
津戸
麥仙
文東
水樹

小首とてうと流と口うとる

五水袋

青田わさぎ

首雲れを敵ゆるわさぎ田外
流りしは夕口へ昇る昔口
水底へ田植とてうと口うとる
澄々かゝ水れうとる田うとる
管れ尾のまやうとる口うとる

耘くわ

目れく老深のむとやたく口うとる
水と又りうとるわさぎ田うとる
青田の河とてうとる口うとる

免士
津戸
一声
寔之
津帯
麥風
其由
素輪

蕨外 まこぼう

玉髪に流るるもまこぼうの志蕨外

李完

裾帯葉外 こころ

まこぶさ成りし店も髪丁やこころ外
水底へ挿し流てもまこぶさ裾帯葉外

海十

甫竹

新竹 こころ

編むに流るるも新竹
新竹や利体とて葉もまこぶさ
まこぶさ裾帯もわらふまこぶさ
柳やど生るるも新竹
臨樹へ流るるも新竹

道風

双虎

笑林

津代袋

菅阜

新竹や西やまこぶさ葉外

青藍

風もまこぶさ葉と吹出まこぶさ葉外

素因

天へまこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

珈涼

ゆきまこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

千代

まこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

千梅

新竹やまこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

帯河

まこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

一氣

新竹やまこぶさ葉外もわらふまこぶさ葉外

朔院

杜鵑花 まこぶさ

八月と流るるもまこぶさ葉外

卯菊

下鴨 湯へまこぶさ葉外

涼例

芙蓉花 あざむぎ

芙蓉花 あざむぎ
芙蓉花 あざむぎ
芙蓉花 あざむぎ
芙蓉花 あざむぎ
芙蓉花 あざむぎ

大阜

和木

芙蓉花

粉圍花 こなま

粉圍花 こなま
粉圍花 こなま
粉圍花 こなま
粉圍花 こなま
粉圍花 こなま

由戸

去路

合歡花 あはれむぎ

合歡花 あはれむぎ
合歡花 あはれむぎ
合歡花 あはれむぎ
合歡花 あはれむぎ
合歡花 あはれむぎ

一紅

布声

古笛

傾城小おふたれと口や福む花

唐字

柘榴花 あざむぎ

柘榴花 あざむぎ
柘榴花 あざむぎ
柘榴花 あざむぎ
柘榴花 あざむぎ
柘榴花 あざむぎ

大坂

土の

色印

梔花 あざむぎ

梔花 あざむぎ
梔花 あざむぎ
梔花 あざむぎ
梔花 あざむぎ
梔花 あざむぎ

羅洲

橘花 あざむぎ

橘花 あざむぎ
橘花 あざむぎ
橘花 あざむぎ
橘花 あざむぎ
橘花 あざむぎ

再可

枸橘花 あざむぎ

枸橘花 あざむぎ
枸橘花 あざむぎ
枸橘花 あざむぎ
枸橘花 あざむぎ
枸橘花 あざむぎ

得孝

棠花 あざむぎ

僕^{ワケ}旅^ツう^ハま^ハい^ハま^ハ凡^ハ夜^ハ乃^ハや^ハあ^ハれ^ハむ

鳥林

伴^ハ者^ハ幾^ハ志^ハ波^ハ奈^ハ 漢名未詳

人^ハろ^ハく^ハぬ^ハ中^ハや^ハさ^ハう^ハは^ハと^ハ花^ハ入^ハ友

介我

棟 わら

心^ハく^ハし^ハ里^ハと^ハ花^ハや^ハ雨^ハ入^ハそ^ハ美^ハく^ハ色^ハ里

くせ

南天燭花 りんてんのほ

ゆ^ハる^ハく^ハる^ハ花^ハや^ハさ^ハく^ハ中^ハと^ハ心^ハて^ハ色

雲和

小袖花 こまゆい

偷^ハ心^ハと^ハ心^ハわ^ハく^ハ女^ハり^ハか^ハ花^ハ袖^ハ小

去路

青山袖 あやまゆい

花^ハ入^ハ鼻^ハ入^ハか^ハく^ハく^ハ青^ハ袖^ハの^ハ花

唐袋

下^ハ夜^ハく^ハ花^ハく^ハく^ハ玉^ハく^ハく^ハ女^ハ青^ハ袖^ハ小

唐字

青山椒 あやま

息^ハつ^ハい^ハく^ハ玉^ハく^ハく^ハ活^ハや^ハま^ハく^ハく^ハ男^ハ

維鳩

青梅實 あおばい

花^ハ梅^ハや^ハ男^ハく^ハく^ハ凡^ハと^ハ花^ハまる^ハく^ハく

双燕

枇杷實 あまのい

花^ハ肥^ハく^ハく^ハく^ハ入^ハく^ハく^ハや^ハ花^ハさ^ハく^ハ雨

曲翠

花^ハ好^ハま^ハの^ハ花^ハや^ハ枇杷^ハの^ハ心^ハひ^ハま

東記

蓮 あしな

糸^ハ凡^ハく^ハく^ハく^ハ花^ハく^ハく^ハく^ハ夏^ハも^ハ花^ハ餅

遼雨

山田御田 やまのたのり

御所^{みよ}庭^{にわ}に^て人^{ひと}の^{こゝろ}を^{あそ}ぶ^る事^{こと}は^なら^ず

幾曉

任^{まか}ず^し御^{みよ}田^で極^{たぎ}み^のの^まに^にし

台^{たい}日^{にち}の^ち極^{たぎ}み^の女^には^なら^ずす^べし^と極^{たぎ}み^の事^{こと}

甫天

ゆ^ゆめ^めの^ち極^{たぎ}み^の乳^{ちち}も^もの^ち極^{たぎ}み^の事^{こと}

鬼工

祇^ぎ園^{えん}神^{かみ}樂^{がく}洗^{せん}ま^のの^まに^にし

清^{せい}き^のの^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

一丸

醴^{れい}ひ^のま^にに

極^{たぎ}み^のの^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

馬貞

氷^こ窟^{くわ}ひ^のま^にに

水^{みづ}と^と極^{たぎ}み^のの^まに^にし

涼袋

忘^{わす}れ^のの^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

麦林

二^{ふた}口^{くち}の^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

洞成

不^ふ盡^{じん}垢^{こう}離^りま^のの^まに^にし

破了

不^ふ盡^{じん}垢^{こう}離^りま^のの^まに^にし

多^た士^し垢^{こう}離^りま^のの^まに^にし

孤屋

垢^{こう}離^りま^のの^まに^にし

凉袋

不^ふ二^に詰^じま^のの^まに^にし

あ^あま^まの^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

乙路

一^{ひと}日^{にち}の^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

己十

少^{せう}年^{ねん}の^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

東紀

海^{うみ}園^{えん}入^いる^のま^にに

海^{うみ}の^ち極^{たぎ}み^のの^まに^にし

如本

襦袢をいもやつゝふ麻と山が浜く
襦袢をいもやつゝふ麻と山が浜く

洗市
六材

石二雪消うしろのツキガ

かゝ解ふもやまきうてあまはらう

産帛

富士袖雪うしろのツキガ

はま茹こと染しでわ二よりさし者
とら乾と脱わあまはらうてあまはらう
麓へきまきし清水やわ二れおれ

産帛
西洋
麥灯

去用曝とようわ

ぬへへ振袖りしうとわが
爪とえぬむひなせひや去用干

得牛
兔義

ぬききかぶづもくわうとわぼく
眉尖かも細く加勢や去用ほく
かきぬみれそ美しうとわ干
ぬきぬやど妙種れ代活や去用曝
かやしや度ひもきまははうのせ
斤端ここれ夕や去用ほく

杉踏
産素
梅園
し路
破了
産帛

暑あつ

暑ききう松と取つくわひちうる
ふるへんれあぐく成わつさ成
一とまの魚ともあつて早さう那
くあつすしと重くはらうる暑あつる

百太
洗帛
荷葉菴
鳩曉

後糸は扇をりししてわひせり
かき破道しるりと切りあはるる
わひき日やうわひてあれく鶴杖
新婦のうれうかくたねは
粘糸は縄をひくちるる
も花より水の熱るり
牛より北月に日陰うかまる
川中より艾のたびかちり
新機とよめりくちるる
影よつく髪一筋うわつさ
わつき日や指とささぬお

帆保
免士
今
一氣
今
雲和
古由
深魚
西羊
春曙
素園

海へさるる可なり
外子のは隙と海を渡る
砂灘の音はくちるる
之井守は流も日のと
靈は渡へてはるる
故情はくちるる
巻物の糸はくちるる
私心して柳へさるる
道中より夜影はくちるる
一トちきり外トさるる

示行
竿秋
軽素
眠居
笑林
眠棠
雨篁
木子橋
住月
王貞

雲峰

よらちや羨く船を走れど浪のり
夕にらや颯と西風を裸に舞はぬ
白雨れ海をよぐまきて舟よりり
夕にらや一確もやまじく舟の波
流由や中らなくとくくづらま
舟のよちや舟中れ塔の人よりく
流由や運へ下流はよくゆく

薰風 くわんふう

去路
船山
春浪
波り
涼袋
冬流
雨石

涼しきや袖にまがゆる山は枝

避暑 ひすむ

治ま

涼しきや木の中せり夕のま
夕涼しきやおめりてけりまみり
土留物とお汐と石わり夕とる
渡り舟はし柳岸をよぎて涼水
わきまゆき石れ運出とまみり
川風の勢とおく心や夕とる
磯の磯の卵とこころ涼水
艇をよぐれしわきまはまみり
樹下士のくくくくくくみり
舟はよけぬぐくくくくくみり
舟はよけぬぐくくくくくみり

今
止結
許六
蘆帆
鬼舟
軽素
竹浪
上列
淋李
15
洞城
恰也

素室 白伎 紀影 鬼士 西篁 是風 全 温故 冠子 既侑 希因
素室 白伎 紀影 鬼士 西篁 是風 全 温故 冠子 既侑 希因
素室 白伎 紀影 鬼士 西篁 是風 全 温故 冠子 既侑 希因

素室 白伎 紀影 鬼士 西篁 是風 全 温故 冠子 既侑 希因

岷郎 麦舟 曲板 車子 一氣 曲板 路川 波上 梅里 杉町 深魚
岷郎 麦舟 曲板 車子 一氣 曲板 路川 波上 梅里 杉町 深魚
岷郎 麦舟 曲板 車子 一氣 曲板 路川 波上 梅里 杉町 深魚

岷郎 麦舟 曲板 車子 一氣 曲板 路川 波上 梅里 杉町 深魚

新く函中よ波わり夕しるが夏

雪音

夏はさうしむ投まじいぐすまふ

素考

船ていじと世もつすす夕すま

兔山

角解人れ裸かろく涼糸

文史

警者避暑暑さうれまみ

とと揮つろく又おとろくみ

古由

鞍馬竹伐くまれまき

舟伐へよまきまや新れ新い中

杖風

摺扇あまき

孝深よ致勝れろく道ふ扇うま

一氣

後ろく新思れとろくわまきうま

右谷

おまこと曇へぬもふゆめは

眠石

京れ街溜し成ろくわまきうま

棧雪

とらちかして名洲新れろくまき

琴時

州ておろく屋住蒙りあまき

玉川

ま白くと漸画のり着まきうま

宿阜

團扇くろく

老波あろくろくおてろくせろく

双飛

取ふ時極ふろくわらぬろくま

小隣

棹櫓へ陽し香よまきうま

破り

折あろく風ろくからあまきうま

池屋

及やろくろく曲ゆまきうま

湖十

草 くさ

わらわいしてはつりとりたういり
食ふこと一振れ法やたういり
因りう産物法やたういり
紙う産物懐法 なま たういり

竹丈人 ちくぢやうじん

竹丈人 ちくぢやうじん ことまされとさひ
量ハ改れらうと店と井丈人
活く産る物 なま 竹丈人
井丈人 ちくぢやうじん びきぬひのいり

抱 かか りやたら た ら ら 白 しろ と音 ね 凡 たふ 膚 くわ

掛番 かかばん

無 な 音 ね やわ や ば ば え え ら ら ぬ ぬ 人 ひと ぞ ぞ う

後井 ごせい

後井 ごせい や や ら ら ぬ ぬ 風 かぜ と と け け ら ら ぬ ぬ

曝布 はくふ

と と 免 めん て て 尚 なほ 水 みづ け け ま ま ぬ ぬ ら ら ぬ ぬ 白 しろ
吾 われ 久 ひさ 山 やま の の 新 あらた 芝 しば ま ま ぬ ぬ ら ら ぬ ぬ 白 しろ
蚊 か れ れ た た け け 踏 ふ 中 なか の の 概 おぼ や や ぬ ぬ 白 しろ
松 まつ う う 也 や ぬ ぬ ら ら ぬ ぬ 白 しろ

清水 しみず

青藍 せいらん

我后 わがご

可也 かや

西平 せいへい

准帝 しゆんてい

維旭 いじやく

雪峨 せつが

兜風 たうふう

素琴 すけ

氣丈 きぢやう

季今 きいま

鬼士 おにし

権雨 けんう

四孔 しこう

破行 はかう

宇鹿 うら

山とくしりちゆりししきる清水外
か室はれ違ふこと天を清水外
とよふとんとて垢つちか清水外
魚の甲しるるるる清水外
人夢へ流ていとも清水外
澄きしとみいのとせ清水外
汗つきれ棄らして垢る清水外
唯礼の後へらまじし清水外
と隙へぬぬれち清水外
一口の物ゆて垢る清水外
とくは八条縫へて清水外

兔士
温故
淨袋
桂露
涼楓
馬曹
洋水
百道
鬼泉
素琴
雨篋

松葉の若冷浴と云々清水外
冷おまきと強おけ清水外
まじりまきとぬ清水外
飲きて流しぬ清水外
後へら馬へ龍おす清水外
とん連へかづ清水外
割か入り清水外
刺のりと交う清水外
りくちちと流のたま清水外
おあとの新撥む清水外
龍おす清水外

洗雪
合
李北
淨袋
一龍
文東
東起
松素
末片
麥水
扇裡

入名れおぶくはくと清水う系
ふきりのもどほこじみりる
蟹れ目の煮くまじ清らう女
海傍へ笑らう道よおれ清水水
業年へ借しうる飯う系

漫貽其菜こらえ

文道賣くわふく教之漫貽其菜
富士うくもきき物らこらえ
とくくの水くも角やこらえ
こんやくも水へ思書やこらえ
玉川れくつはけおやこらえ

室いやどらやうりて漫貽其菜

冷齋 いやじま

冷齋やわじのこらけ居れ上
練告天子 祈ういごう
羽衣やうまわゆる形や海苔こ子
りておれく人のこまよ海苔天子
まじつうくわらう海苔や海苔天子

蟬 せこ

家 ちんちんからうまや東け蟬
腕控し衣かせてや装うたこ
お 俗とらるわうこや際の色

入楚

宣考

秋平

買明

東奴

祇正

具角

蘆元

玄治

貞休

儿山

支考

市紅

五表

白圭

双飛

古龍

鬼士

うひやもれ水汲わしてせみ共声
法に徳茶師の道や際うらま
養の道うぬちうらまと有輝共声
濱の物し何と申せ淑々女共聲
士はうねはとてこれより際ひし
極やうとふ又凡中やあま共声
口ぬしとて文流とよりに道ひ際ひ声
帆極もあまぬらやせみ共声
はくでうね共声よれ板や飛板共

鶴鶴川うらま

飛鶴共声いしうらま

康城
一氣
可成
素秋
涼巾
糸文
木兒
冠子
蹄臺

涼しやうらまいしもなうて鶴共声
皆うねせてうらまぬ火いしうらま共声
をのめれ子しとてうらまぬ共声
新子とりしうらまてとてうらま共声
川うらまやうらまうらま
川うらまやうらまうらま
川うらまやうらまうらま
川うらまやうらまうらま
川うらまやうらまうらま
川うらまやうらまうらま

川うらま

瀧繪 おきなうらま

梅踏
涼袋
兔士
眠棠
涼袋
利里
幾和
燕石
岬呂

おはに高す海への冷なぬ草もはし
汐河とと並し拾ふやおきなます
砂よもさし花とわけりおきなます
幸いとものさすしてさびし海船

籍泊まろ

泊るゆきし海や船とまろ海波

海母捕まろ

海母まろ迎ふまろまろまろ

岸まろ

岸まろまろまろまろまろまろ

まろまろまろまろまろまろ

汶上

楚梅

多炊

唐引

楚外

鹽峯

希因

全

素茂

双花

檣船

し路

後
太阜

弟
洗雪

麦皮

李北

藩花とれま

藩花とれま一つむとんて木はひく

藩花とれまとれまて泥船の柳にま

群牛

青藍

藤花の香や葉子冷あわどは夏は花

双花

菱花 ひしぎ

藤花の香は涼気やさむくは花
空の形は氏流もや菱花集

萍蓬草 うきぼうそう

かきつばたや一輪は花つきにむか

岸呂

萍蓬草や葉ととれはさうむら

東奴

このほのや涼と花のぬきさう

希園

かきつばたの裾流も涼く水花上

素堂

蓮花 れんげ

花のあはれさうむらけや蓮花は花

志山

花のあはれさうむらけや蓮花は花

水鳥の卵ととれはさうむら

花のあはれさうむらけや蓮花は花

薔薇 ばいばい

花のあはれさうむらけや蓮花は花

薔薇 ばいばい

花のあはれさうむらけや蓮花は花

花のあはれさうむらけや蓮花は花

花のあはれさうむらけや蓮花は花

薔薇 ばいばい

花のあはれさうむらけや蓮花は花

破了

宇沖

汶上

世貞

ほでしよや一輪つゝしよはらぬる

冠子

風花蘭 ふうらん

凡草や夏代わかあしつゝにまき
ゆきや喉にひれとわがまじり

梅布

維鳩

地衣 ちい

ゆやまきあやつゝしよはらぬる

生仁

鋸葉景天 しのばし

毛極く毛虫とめきりまらぬる

汶上

射干 ひわがき

むらあまや虫れれとわがまじり

淨代

飛りあはや 渡りつゝしよはらぬる

風草

旌節 しのばし

らつしよあまらとまらぬる梅草の中

杉呂

虎耳草 しのばし

ほろろはるれとまらぬる虎耳草

仙童

葛花 しのばし

道通し口道ばとく葛とまらぬる

玄踏

せめてまらぬる里居地水や葛の毒

双鹿

刈草子とまらぬるまらぬる葛の花

淨宇

報子花 ひわがき

おれつちや色くれまらぬる

一馬

報子とまらぬるまらぬるのまらぬる

青藍

報子花や摺紙の道了もいふ
わらうらや日法はわらとむね
あはらうらや裂やいれいも
ひるいもやこしらへたあも
報子花や摺紙の験のあひいも
いりあやいもよとあも
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと

壺盧花

あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと

唐氏

今

世有

可

一氣

賦石

素

作

具

羊

あはらうらやあはらうらと

李洞

あはらうらやあはらうらと

大至

あはらうらやあはらうらと

賦業

艶花

あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと

笑

雨

草

凌霄花

あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと
あはらうらやあはらうらと

一紅

洞城

白枝

山を九路と岩より空を清水と
山を八路と晴をくくく清水と
山を七路と雲と山をくくく外
山を六路と山をくくく外
山を五路と山をくくく外
山を四路と山をくくく外
山を三路と山をくくく外
山を二路と山をくくく外
山を一と山をくくく外

葛粉水

祇堂
以秀
石燈
画
可
雨
柳水
斗光
五仙
斗十

葛粉水や底へ居るぬる水へ
葛粉水や小指の丸も世と
喰飯へ友や海極うむいすき

五衰
乙列
元政



編

凌音の光くやかく比へる

思明

向日花

日あさうやつゆぬよくく白

色印

草綿花

是れよと白くもさうすあゆむ

鬼塚

かくの日はぬくりくもや海は光

其葉

姑く一の道とくぬほやうるの形

文史

茅月青菜とくうう

一版迎いふいとりまよとよはわさう

桃衣

燈心草刈わさう

まき席蔭わさ刈ふ人の踏も見す

養湖

麻刈わさう

麻刈やまよひとつとていんくちる

去路

わさこのつとやまの形取とくゆき

亭平

麻刈や一漁づつと日れわさう

有琴

藍刈わさう

藍刈や減たれ獨とくううれと

呉為

餅瓜まこり

葉のうらとていんくちる

茗椒

危丁て人と拓くや瓜とくけ

双瓜

醫者とくまきと幕後たせぬまき

梅丈

角のまきまきと戯場のまきや瓜と

竹洞

まきと交つていんくちるやううう

金谷

百日紅まこり

百日紅まきまきとつとていんくちる

とま

木代りの師迎まきまきと相まき

木代

天満祭まきまき

私くまきまきとつとていんくちる

柳林

提燈ちていて水とよわきるまじりて

一五九

燈あいて汗とよわつたおのゝ

香藍

子この死しとあやゆさう

洞城

住吉祭すけよしまつり

免めん將しょう獨どくよよ喉のど通といいままのの歌うた

十雨

御ご板いた

山やまよよ切りきりああるるととああるるははるる

大至

蝉せみ入い洞どうとと思おもははるる路みちやや御ご板いた川がわ

田社

是こゝまでまでととああるる御ご板いた川がわ

浄節

